

資料1

平成 25 年度 自己評価表

鳥取県立鳥取聾学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>聴覚障がい児一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、豊かな心とたくましく生きる力を育てる。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 確かな学力の定着を図る学習指導の充実 2 自立を目指したよりよい社会参加と豊かな心の育成 3 豊かな自己表現力の向上</p>
---------------------------	---	----------------------	---

評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初		評 価 結 果 2 月		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	経過・達成状況	改善方策	
確かな学力の定着を図る学習指導の充実	(地) ①個々の発達に応じて言語の獲得・拡充を図る。 ②在籍園・在籍校と連携し、その子に応じたよりよい支援を提供する。	個々の聴こえの程度や発達の状態、その子を取り巻く状況によって、適切な言語環境下におかれていない幼児・児童・生徒や困り感が十分には理解できない保護者がいる。	①個々の発達に応じた言語活動の充実 ②在籍園・在籍校との日々の連携	①聴力測定や発達検査等を行い、その子に応じた支援方法を考え、本人、保護者、担任等に伝える。 ②理解学習等の研修、日々の学習支援について幼児・児童・生徒の実態や在籍園・在籍校のニーズに応じた支援を提供する。	幼児・児童の実態や興味・関心を考慮し、教材の工夫を引き続き行い、実際の生活の場面で活用できるように支援をした。聴力測定も随時実施した。 保護者、在籍園・在籍校を対象とした研修を行い、概ね理解は得られた。	B 職員間での共通理解や次年度に向けた引き継ぎを行い、子ども達の支援・指導を行う。 一度の研修で終わるのではなく、継続した声かけや支援を行うとともに、本校・在籍園・在籍校・家庭が一丸となって取り組み、指導効果を高める。
	(幼) 直接触れる体験ができる環境や機会を設定する。	経験が不足していたり、情報が入りにくかったりして、興味・関心がせいまい。	いろいろな事象に興味・関心をもってかかわる。	①身近な事象に興味を持てるように、掲示物等を工夫する。 ②継続的に興味や関心を持てるような題材を工夫する。	植物の成長を期待して大事に育てたり季節に応じた自然のものを使って遊んだりすることで、興味や関心が広がった。	A 発達段階を考慮し、さらに季節に応じた場や活動を設定し、感じる心を高めていきたい。
	(小) 個に応じた学習指導を工夫、改善する。	①獲得語彙数は増えてきているが、文法力、読解力で課題をもつ児童が多い。 ②既習事項の定着が十分ではなく、復習に時間がかかる。	学年相応の学習内容の基礎基本が定着する。	①毎時間既習事項の確認の取り組みを行う。 ②つまづきの傾向について共通理解をはかり、支援方法について話し合う時間をもち、学習指導に活かす。 ③学習内容の定着を図るため、教室環境の工夫に努める。 ④児童の実態に応じた指導形態を工夫し、語彙数を増やしたり、文法力を高めたりする。	既習事項の確認や教室環境の工夫に努め、学力が定着しつつある。 つまづきの傾向について話し合う時間が不足している。 実態に応じた学習集団をつくり、計画的に言葉の学習をすることで、文法力が高まった。	B 学部研で児童の実態に応じた指導方法や教室環境などについて話し合う時間を確保する。
	(中) APDCAサイクルを活用した授業実践や教科指導の充実によって、学習に対する意欲を高める。	学習に対する意欲は少しずつ高まりつつあるが、学習方法がわからなかったり、家庭学習が定着しなかったりするため、確かな学力の定着には至っていない。	学習に意欲的に取り組み、学習方法を自主的に工夫したり、家庭学習に意欲的に取り組んだりしようとする。	一人一人の的確な実態把握と目標設定を行い、学部で共通理解をしながら、目標に沿った学習内容を計画していく。生徒・教師による振り返り・評価を行い、次時の学習に活かしていく。情報機器を取り入れて学力向上をめざす工夫をする。	生徒一人一人の実態に合った学習内容を設定し、絵や図を使用した説明・iPadの使用・パワーポイントでの教材作成等を行い、わかりやすい授業に努めた。新しい語句は手話、指文字で繰り返し確認することによって定着が見られた。生徒たちは数値を入れた目標を設定したり考える時間やまとめる時間をしっかりと確保することで、意欲的に学習したり自分に合った学習方法を見つけて主体的に取り組んだりする姿が見られた。	B 一人一人に合った効果的な学習方法が定着するよう、毎日確認しながら個に合わせた指導を継続する。iPad等の情報機器を活用し、効果的な視覚的支援を工夫していく。教科指導の専門性を高めていきたい。
	(高) 自学自習の力をつけるために、個々の生徒に応じた学習指導法の改善・工夫をするとともに、家庭学習の習慣化の徹底を図る。	生徒によっては家庭学習の時間が1時間未満というときもあり、家庭学習が習慣化していない実態もみられる。学習への動機づけと同時に日々の授業において、その指導法を工夫し、生徒の主体的に学習に取り組む姿勢を培う必要がある。	①毎日、最低2時間以上の家庭学習を全生徒が行う。 ②年度当初より家庭学習時間を5割増加させる。	①常に進路を意識した学習への動機づけを全教職員で継続・徹底する。 ②個々の生徒の特性に応じた課題を共通認識し、指導法を工夫するための授業研究を行う。 ③家庭学習の内容や時間の確認を継続して行う。	高2生は進路決定に向けて意識も高まりつつあり、家庭学習の習慣化は定着しつつあるが、個々の生徒では、課題に対する評価や内容を検討していく必要がある。高1生は個々につまづきの内容を抽出し、具体的な指導法・支援方法の改善・工夫をすることで、学習意欲も高まりつつある。	B 更に家庭学習の内容や時間の確認を継続し、自学自習の必要性を意識させ、生徒の学習意欲の喚起を促す。また、今まで以上に家庭との連携を深める必要がある。個々の特性に応じた課題について、共通認識を行い、自主学習を喚起する方法や学習規律を統一するなど工夫する必要がある。
自立を目指したよりよい豊かな心の育成	(地) ①発達に応じた補聴器等に関した生活習慣が身につけられるよう家庭や在籍園・在籍校との連携を図る。 ②個々の状態に応じて聴覚障がい理解学習等の研修を充実する。	聴覚障がい児に対するかかわり方への正しい理解のなさや不安から適切な環境下で育ちにくい状況にある幼児・児童・生徒がいる。	①家庭や学校等との日々の充実した連携 ②保護者や家族、教職員等に対する聴覚障がい教育に関する研修の充実	①相談や連絡帳等を通して保護者や学校等と日々の丁寧な連携を図る。 ②計画的に保護者や学校等を対象として幼児児童生徒や在籍園・在籍校のニーズに応じた研修会を開催する。	在籍校の教員・保護者等に対しては、必要があれば随時教育相談や研修会を開催する。 幼児教育相談では、教員二人で入る場面を増やしたり、保護者を中心とした研修会を開催したりして、少しずつであるが、保護者支援を手厚くする手がかかりを作った。	B 来年度も乳幼児教育相談はできるだけ複数人であるなど保護者支援に努めていきたい。 本校の方針を保護者に示し、理解を得ると共に、保護者の思いを受け入れ、より高次の支援を心がけていきたい。
	(幼) 幼児同士がかかわることができる場を設定し、かかわり方を支援する。	かかわり方に支援が必要であるが、友達と好んで活動する。	自分の思いを表現しながら、友達とかかわることができる。	生活全般、特に、自由遊び、朝の会、給食の場面で機会を逃さず支援する。	自由遊びの中で異年齢の友達とも関わられるように支援に努め、一緒に遊ぶ姿が見られるようになった。	B 機会を捉えて、友達との関わり方を支援していきたい。
	(小) 友達と協力し合う場をつくる。 公共の場できまりよく過ごす児童が増える。	①友達と意見を出し合う経験が少なく、主体的に判断し、友達と協力しあっている活動することが少ない。 ②遠方から通学して、地域とのつながりが薄い児童が多い。 ③公共交通機関を使って通学している児童が半数いる。公共の場でのマナーについては指導中である。	①自分の思いを伝えながら、友達と仲良く協力して活動する場を増やす。 ②公共でのマナーが向上する。	①合同で行う学習を行い、その中に児童同士が話し合ったり協力しあったりする場面を設定する。 ②集団での学習指導の際には事前・事後指導を行い、学習の見通しをもち、めあてを意識し主体的に活動できるようにする。 ③児童の実態に応じ、機会をとらえてマナーについての指導する。	年齢に応じた集団を設定し、相談したり協力したりする活動を多く設定することで、協力し合い、伝え合える場面が増えてきた。 公共交通機関を用いる活動を設定し、マナーやルールについての意識が向上した。	B 小学部全体の集団と小集団(上・下学年)をねらいに応じて工夫する。 言葉づかいやルールなどの指導について教員同士が共通理解を図る。
	(中) 職場見学、職場体験学習等の充実によって、将来の生活への意識を高める。	進路に関してははっきりとした目標は立っていない。職場見学、職場体験学習を経験する中で少しずつ近い将来や遠い将来へのイメージを持ちつつある。	高等部へのイメージを持ち、将来につながるために必要な学習へのイメージが持てる。職場見学、職場体験学習に目標を持つことで、自己の振り返りをする中で、自分の課題や次の目標を考えることができる。	学部会において子どもを語る時間を確保し、生徒一人一人の状況を把握する。一人一人の特性を見極めた進路に関する学習の充実を図る。保護者との連携を図り、進路に関する情報提供をしていく。	高等部進学に向けて、生徒が目標を持ち真剣に考えることができた。将来の生活については、まだ教員主導の面もあるが、先輩の話の聞いたり、本・インターネットで調べたりし、イメージを持ちつつある。自分で考えたいという生徒自身の意識の高まりが見られた。保護者と進路に関する連携を深めていきたい。	B 職業に関する本を集めたり、校内作業実習を実施するなどして生徒の意識をさらに高めていきたい。
(高) 常に社会自立を意識させる生活指導を徹底し、規律ある生活習慣を身につけさせる。	ほとんどの生徒はきまりを守り生活できているが、一部生徒に体調不良や精神面で時間規律が身につけていない実態もあり、社会自立に向けてさらに生活習慣を確立させる必要がある。	①家庭や寄宿舎との連絡を徹底し、連携を密にする。 ②常に進路や社会自立を意識させ、生徒の気持ちを受け止めながら、全教職員で生徒指導を徹底する。	①家庭訪問や懇談等を活用し、また寄宿舎とも連携しながら保護者に学校の指導を周知徹底する。 ②スクールカウンセラーの効果的な活用を図る。 ③学期初めに服装検査を実施する。	一部の生徒で体調や精神面の不安定さから時間規律が確立できていない場面もみられたが、様々な支援により改善がみられた。基本的な生活習慣は確立されているが、例えば学習に関する提出物の期限が遅れる生徒もあり、更に将来の社会生活における個々の生徒の課題を意識させながら、生活させていく必要がある。	B 更に家庭や寄宿舎とも連携を密にして、生徒の状況に関わる情報を共有して、学校教育への協力を得る努力をしていく。また、情報モラルなど更に個別に生活指導を図る必要がある。	

豊かな自己表現力の向上	(地) ①保護者や本人が子どもや自分の障がいを理解し、適切な進路選択ができるように支援する。 ②コミュニケーション力の基礎を育成し、他者とかかわりたいという意欲を育てる。	保護者も本人も障がいの受容ができず悩んでいることがある。また、障がいがあることで他者とのかかわりが消極的になってしまうことがある。	①本人や保護者の気持ちを大切にしながら適切な進路及び研修の提供を行う。 ②本人の気持ちを受け止めながらよりよいかかわりのモデルを提供する。	①自己理解の学習を進めたり、共に進路について考えられるように研修を実施する。 ②他者と楽しんでかかわれるような活動を計画し、個別や集団等学習の形態を工夫する。	乳幼児教育相談では、必要に応じて保護者に他学部活動の様子を見学してもらい、将来への見通しをもった。子ども達にコミュニケーションの大切さや楽しさ、他者との関わりへの意欲を持たせるため、教員がやりとりのモデルを示した。 在籍園・在籍校に対しては、情報保障面を中心に集団活動の際の聴覚障がい児への留意事項を伝えるなどしている。	B	子どもと保護者の気持ちを大切にしながら、継続して障がい認識などの自立活動的な内容も充実させていきたい。 在籍園や在籍校などにおける集団活動の支援では、情報保障以外の面でも工夫をしていきたい。
	(幼) 心の動きを大切に、表現力を高める指導を工夫する。	自分の思いを伝えたい気持ちはあるが、その気持ちを言葉で伝えることができず、トラブルになることがある。	朝の会の伝え合い活動で幼児が思いを表現できる。	①幼児の実態に応じたグループ編成をする。 ②幼児の思いをくみ取り、表現できるように指導する。 ③やり取りが活発になるように実物や絵等を提示し、話題の共有を図る。	3歳児は興味を引くものを提示したり見せ方を工夫したりして、教員対幼児のやり取りが活発になってきた。 5歳児はやり取りに必要な言葉の定着を支援したり話題の内容を理解できるように補足したりすることで幼児同士が共通の話題で活発にやり取りができるようになった。	B	引き続き、教員対幼児、幼児同士のやり取りが活発になるような支援を心がけたい。
	(小) ①体験的な活動を学習に取り入れる。 ②友達と思いや考えを伝え合う場を設定する。	①自分の思いはあるが、うまく言葉で伝えられない場面がある。 ②友達の思いや考えを受けとめながら話し合いを進めることが苦手である。 ③少しずつ積極的になってきたが、自信がないために消極的な面がある。	児童が積極的に思いや考えを伝えるとともに、友達の話をよく聞いてやり取りする。	①学習の中に友達同士で伝え合う場面を設定する。 ②学習の中で「聞き方名人」「話し方名人」を意識した声かけを行う。（3年生以上は目標をもって取り組む。） ③具体的な伝え方の例を示したり、発問の仕方を工夫したりし、自信をもって発表できるようにする。	友達同士で伝え合う時間を確保し、思ったことを積極的に伝えようとする姿が見られるようになった。 「話型」を示したり、事前にまとめる時間を設定したりすることで、自信をもって発表することができるようになった。	B	各児童の目標を共通理解する場の設定を行う。（学部研） 教師が適切な日本語を話すモデルとなる。 話す、聞く態度について幼稚部との連携を図る。（学部研）
	(中) 集団活動において自分の思いを伝えようとする意欲を高める。	言葉を広く活用しようと努力している。しかし、語彙力が弱い傾向があり、積極的なコミュニケーションの定着には至っていない。集団活動における体験活動や話し合い活動を通して豊かな表現力をつけていくことを必要としている。	①自分の思いを仲間へ豊かに表現しようとする。 ②自信を持ってコミュニケーションがとれ、会話が広がる。	①一人一人の自立活動における目標設定に取り組み、目標に沿った自立活動や個別の学習を工夫する。 ②総合的な学習の時間や教科学習（音楽・体育等）における集団活動の場面を設定し、話し合い活動の中で自分の思いを表現する伝え合い活動を充実させる。	生徒達は、鳥の劇場での公演・学校祭・弁論大会・作文朗読等を経験することによって達成感を感じ、伝える喜びや意義を学ぶことができたと考える。手話や語彙が増え、表現力も高まった。また、仲間としてのつながりが深まった。自立活動や体育・音楽では、グループでの話し合い活動を積極的に取り入れた。分からないことを尋ねたり、友達の考えを尊重しながら自分の考えを分かりやすく伝えたりする力が育ってきている。しかし、話し合い活動において内容が深まらなかったり、一人が一つ意見を言って終わりということもあり、課題が残る。	B	総合的な学習の時間や体育・音楽・自立活動において、テーマや問いについてみんなで意見を言い合うような話し合い活動を、今後も多く取り入れていきたい。活動の中では、伝えることだけでなく、相手の気持ちや意図を受け止めることができるよう、経験を増やし、機をとらえた具体的な指導を心がけていきたい。また、教員も話し合いに参加し、意見を言ったり生徒に聞き返すなどし、内容が深まるきっかけとなる支援をしていきたい。
	(高) 職場見学や現場体験学習を活用し、体験的学習の充実させることで社会力を身につける必要性を理解させる。	実際に仕事を進めたり、職場の人間関係を円滑にするためのコミュニケーションが必要であることを具体的に生徒が理解できていない実態もある。	すべての生徒が実際の職場での体験学習を通して、社会力を身につけることの必要性を理解できる。	①現場体験学習後のまとめ学習を通して、達成できたかどうかの評価を行う。 ②現場体験学習をきっかけに、個々の生徒の課題を明確にし、社会力を身につけるための継続的な取り組みを行う。	現場体験学習では、評価と自己認識とにズレがある生徒の実態もみえてきた。また個々には、実際の職場や作業所等で実習を行っており、更に継続的に学校において社会力を身につける取り組みを続ける必要がある。	B	キャリア発達支援段階表の具現化を継続し、生徒の特性をふまえて、個々の生徒の課題を明確にし、自立活動を中心に学校生活における社会力を身につける取り組みを進めていく。

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%） C：変化の兆し（60%） D：まだ不十分（40%） E：目標・方策の見直し（30%以下）